

事後評価概要

事業名	農地防災事業(ため池等)	地区名	しのいけ 篠の池
事業箇所	本庄市	事業実施機関	大里農林振興センター
総事業費	1億7112万円	事業期間	平成27年度～平成30年度
事業の概要	<p>篠の池は大正時代に築造され、100年以上が経過した老朽ため池である。堤体上流側で断面変形が生じ、基礎部からの漏水と洪水吐の能力不足から危険な状態であり、災害時の被害は甚大なものと想定される。また取水施設は老朽化により、階段部が沈下・傾斜している状況で維持管理面でも危険な状況となっていた。</p> <p>このため、災害を未然に防止し、被害を最小限に食い止め、農業経営の安定を図るために堤体、洪水吐、取水口の改修を行うものである。</p> <p>事業内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・堤体改修 L = 70 m ・洪水吐改修 1箇所 ・取水設備改修 1箇所 		
事業効果	事業実施前と現在での比較		
	実施前	現在	
堤体工	堤体からの漏水量が許容限界を超えており、パイピング等の発生する可能性が高かった。また、堤体の安全率も基準値を満たしておらず、浸食による堤体断面形の変状や余裕高不足もあり、危険な状態であった。	堤体の改修により漏水はなくなり、堤体断面の変状と余裕高不足は解消され、安全率も基準値を満たした。	
洪水吐	流下能力が不足しており、老朽化によるコンクリートの破損、護岸部の空洞化が進み危険な状態となっていた。	改修により現在の基準を満たす構造物となり、流下能力が確保された。	
取水設備工	木製のため池栓であるが、施設の老朽化が進み、土砂閉塞、破損等で使用できない状態であった。緊急対策としてサイホン式取水施設を仮設していた。	改修により安定した取水が可能となり、取水形式をスライドゲート方式にしたことで操作が簡単となった。また、斜樋取水孔と兼ねた緊急放流工を設けることで緊急時の水位の調整が可能になった。	

事業前(H27)

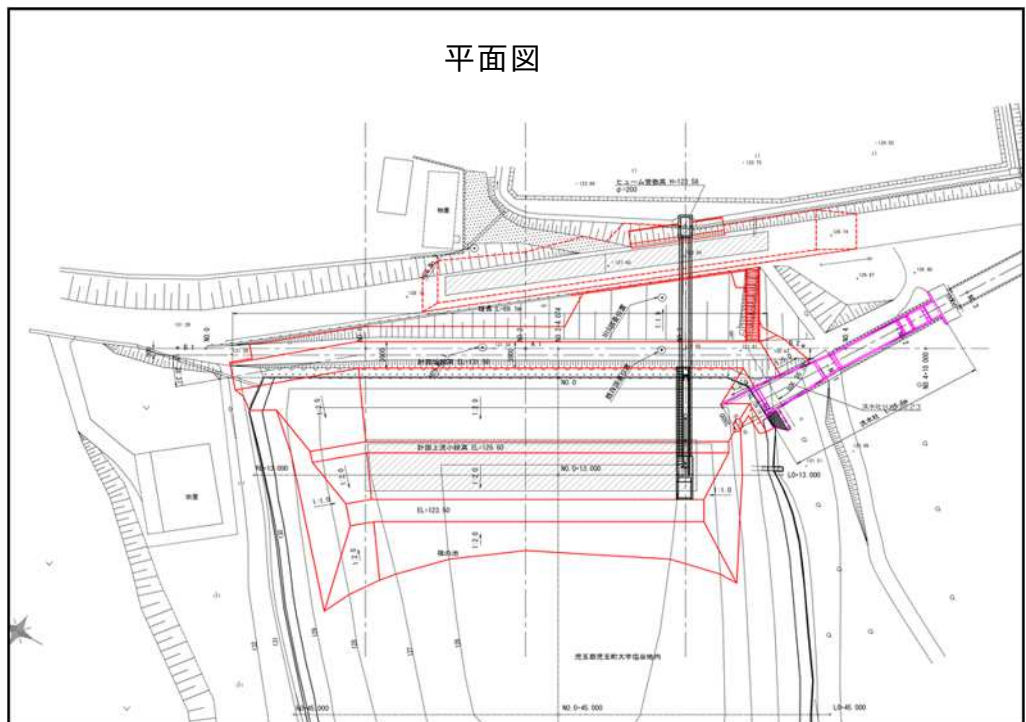


事業後(H30)



その他

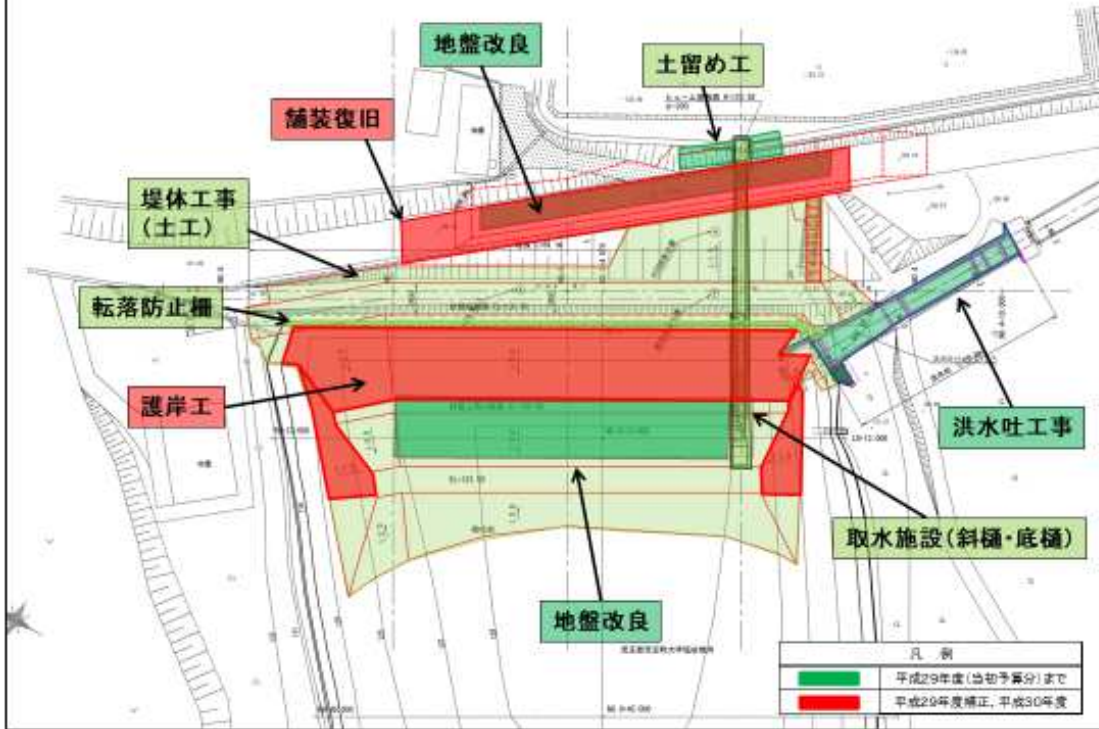
平面図



事後評価結果

堤体及び洪水吐、取水施設の一体的な施設改修を行い、基準値以下であった堤体の安全率及び断面不足、余裕高不足と洪水吐の流下能力不足を解消し、防災減災が図られた。また、安定した用水量が確保され、安全な取水が可能となった。

計画平面図



標準断面図

